

十四年御歩に任じ、後前田吉徳御部屋附・御歩横目に轉じ、享保九年新知八十石御細工者小頭となり、元文五年廣尾御前御用人並に進み、組外に列し、寶曆十二年四月九十一歳を以て歿。子孫藩に世襲する。

ヤマギシコウ 山岸弘 通稱半陸、北洲と號した。家世々加賀藩に仕へ、安政七年三月明倫堂句讀師を命ぜられ、文久三年十月訓導に進み、次いで四年十二月助教加人となり、明治二年四月三等文學教師を命ぜられ、三年七月起注館漢學教師を兼務したが、十月轉じて前田利嗣の侍讀となり、置縣の後又諸學校に教鞭を執り漢學を授けた。弘最も詩文を善くし、劍槍弓馬皆堂に入った。明治三十七年三月歿、年七十一。著す所文鈔がある。

ヤマギシサンジュウロウ 山岸三十郎 金澤の町人平野屋三代半助の子。前田利常の時小々將として召出され、祿三百石を受け、次いで二百石を加恩し、堂形米奉行に任じ、利常の小松隠棲に隨ひ、慶安三年十月歿した。子孫世々藩に仕へる。

ヤマギシシンザエモン 山岸新左衛門 ↓ウハギイヘミツ 上木家光。

ヤマギシナガヒサ 山岸長壽 通稱紋左衛門。初め御居間方御歩で、元文四年新番となり、天明五年新知百石を得て組外に列した。子孫相繼いで藩に仕へる。

ヤマギシノシンシロウ 山岸の新四郎 もと彌波郡水牧村の百姓であつたが、明暦元年初めて鳳至郡山岸に移り、十村の職を奉じ、改作の事に盡力した。依つて寛文元年持高の内九反百六十歩を扶持せられた。七年二月歿後二代新四郎之を襲いだ。

ヤマギシモトミチ 山岸本道 通稱七郎兵衛。三十郎の次子で、配分知百五十石を受け、享保七年御預地方御用となり、十一年百石を加へ、寛保二年組外番頭に進み、寶曆二年十二月廿四日七十三歳を以て歿した。

ヤマギシユキウチ 山岸之氏 通稱宇右衛門。元文五年新番となり、天明五年新知百石を受け、組外に班し、享和元年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ヤマキタ 山北 河北郡笠野郷の北(部落名)は、明治に至つて山北と改稱した。

ヤマグチ 山口 鳳至郡山田郷に屬する部落。明治中三田・番頭谷・木住と合併して山田と稱した。

ヤマグチ 山口 珠洲郡時長の内の小字。

ヤマグチカズサダ 山口一貞 通稱六郎左衛門。寛保三年養父源太夫一巷の遺知二百五十石を受け、前田重熙の御抱守から延享四年奥小將横目となつて七十石を増し、寶曆七年組外番頭より大組頭に至り、安永三年免ぜられた。

ヤマグチカツサト 山口一巷 通稱源太夫。小左衛門。初め百五十石を受け、御近習番となり、元文元年定番御番頭に進んで百石を加へ、寛保三年歿した。

ヤマグチガハ 山口川 鹿島郡武部領額谷から流出し、二宮領で二宮川に落合ふ。流域四軒許。

ぼした始末を書いたものである。ヤマグチジロザエモン 山口次郎左衛門 前田利家に仕へて四百石を領した。子孫藩に世襲する。

ヤマグチトモサダ 山口知貞 大聖寺藩士。通稱半平・吉太夫。食俸六十石。算學を河島備矩に學び、藩札手形元締役等に任じ、明治三年四月十一日八十一歳を以て歿。その算法の傳書は之を高弟坪川常通に授けた。

ヤマグチナガヒロ 山口修弘 通稱右京亮。大聖寺城主玄蕃宗永の子。慶長五年六月三日前田利長の爲に城を陥れられた時、修弘は山崎長徳の臣木崎長左衛門の爲に鹹せられた。後その菩提所全昌寺では英賢院恭温良雄大居士と諡し、祖父山口甚助秀景の建てた京都誠心院では、吸江院玄庵宗龐大居士といつた。

ヤマグチノブトシ 山口信逸 通稱衆之助。左膳・新藏・清太夫。明和五年父久五郎の遺知三の一を受け、後本知二百五十石に復し、組外・大小將・表小將に歴任し、寛政二年五十石を加へ、七年表小將横目より次第に昇進して定番頭並に至り、文化七年二百石、文政十二年百五十石を加へ、天保五年致仕して料二百石を受け、十年歿した。

ヤマグチヒツキ 山口筆記 一册。淺井噯合戦の始末を述べたもの。慶安四年二月山口彦太郎の筆記であるといふ。

ヤマグチムネナガ 山口宗永 山城級喜郡宇治田原の城主山口甚助秀景の子であるといひ、小早川秀秋の老臣であつた。舊説に慶長二年宗永は溝口秀勝の後を受けて、加賀江沼郡の領主となつたとするが、同郡は慶長三年夏から四年二月に至るまで、秀秋の所領であつたのであるから、宗永は秀秋の轉封の後そこを領したものと思はれる。五年宗永石田三成に黨して、前田利長に抗した爲、八月三日利長の攻圍を受け、遂に自刃した。後その菩提所全昌寺では、諡して大雄院吹毛機鋒居士といひ、秀景の建てた京都誠心院では、松元庵珍山宗永大居士と諡した。

ヤマグチムネナガノクビツカ 山口宗永の首塚 江沼郡大聖寺なる新町の西側に在つて、今は民有地に屬し、尙その址を存して居る。又宗永の子修弘の首塚は同町東側に在つた。明治廿三年その土石を全昌寺に移し、碑を立て、父子の靈を祀つた。

ヤマグチヤゴヘ 山口彌五兵衛 天正十一年前田利長に仕へて二百五十石を領した。その子彌五兵衛遺知を襲ぎ、更に百五十石を増し、松嶺院附御用人・御先簡頭に歴任し、貞享元年歿。子孫藩に世襲する。

ヤマグチリン 山口嶺 大聖寺藩士。通稱定右衛門・右内、後に嶺と稱し、梅園と號した。吉太夫知貞の子で、萬延二年その後を繼ぎ、算學を父に習ひ、書を小原文英に學び、又京に往いて浦上春琴に從遊した。明治十二年の頃七十歳許で歿。

ヤマコレキヨ 山是清 ヤマコリ 鳳至郡阿岸郷に屬する部落。寛文八年白山山麓が幕府領となつた時、尾添・瀬戸からその地に出作してゐた者が、加賀藩の領民たらんことを歎願した。因つて山是清百十二石の地に住民なく、附近七ヶ村の出作所となつてゐたのを引揚げ、七十八石を尾添の百姓廿二軒九十一人に、三十四石を瀬戸の百姓十軒三十九人に與へて一村を創立せしめた。鎮守白山社はこの